

地政学的観点から見た世界の歴史

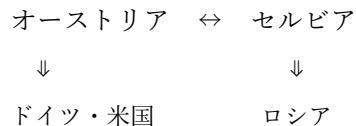
(朝日新聞出版参考)

年代	地政学的観点から見た世界の動向
15世紀	中国「明」時代鄭和による7次にわたる遠征航海 →交易目的では無く「明」の威儀を示す目的。折角のシーパワーへの進出のチャンスを逸する。
16世紀	ポルトガルとスペインが世界の領土を分割する
17世紀	シーパワーの覇権国がオランダとなり、イギリスが猛進 日本も徳川家康がメキシコとの交易を画策したが、相手が交易=布教を条件としたため侵略を心配して決裂。 布教を条件としなかったオランダと交易を開始
18世紀	イギリスがフランスを抑えながら世界へ進出 イギリス・オランダの海洋力による発展の姿を見たランドパワー大国ロシアが海への進出を強く志向。
19世紀前半	ウィーン体制で平和を取り戻したヨーロッパでは各国が改めて海外進出を試みる イギリス → 中国への侵略と支配 1840 アヘン戦争 自由貿易の体裁を取りながら支配（香港等） 日本の目覚め（徳川幕府による230年の鎖国から） 明治維新後、積極的に西欧の政治体制や文化・技術を導入し、めざましく発展し、諸外国と対等に渡り合うようになる。 ランドパワーのロシアが鉄道（シベリア鉄道）の発達を利用して領土拡大へ積極的に動きを示す。 ロシアは中国（清）から沿海州を奪い、ウラジオストク港を開設 ランドパワーからシーパワーを狙う
	更に朝鮮半島への進出を狙っていた為、イギリス/日本により阻止へ (日露戦争で日本が勝利した為目的に達せず)

1900 年～1918 年

第一次世界大戦勃発

ランドパワー新興国ドイツの領土拡張への動きを背景にして、サラエボでのオーストリア皇太子暗殺を契機に全ヨーロッパを巻き込んでの大戦



1918 年ドイツの降伏でようやく終戦となる

ヨーロッパ全体の疲弊と米国の西欧での主役となる切っ掛け

1919 年～1945 年

第二次世界大戦

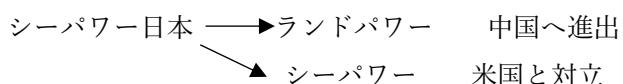
第一次大戦の影響で世界の交易がブロック化され、日独伊が苦境に立たされ、

又、ドイツでの第一次大戦での賠償が過酷であったためナチの台頭を見た。

シーパワー同志の日本と米国の対立

米国による日本への石油供給のブロックによる日本の南下戦略のぶつかり合い。

日本の同時二面戦の無理



1929 年 世界恐慌で一気に大戦の構えに

1945 年～1989 年

第二次世界大戦後の世界のレジーム

自由主義 米国 ↔ 社会主義 ソ連

冷戦対立

日本は自由主義陣営に組み込まれ、東アジアにおける社会主义の防波堤としての役割を担わされ、米国の軍事的な庇護の下に経済活動に注力し、一時期世界第 2 位の経済大国となった。(中国の発展で現在第 3 位)

1989 年～現在

冷戦の終結で世界が平和の下にまとまるかと予想されたが、そうはならずになると更なる混迷に陥った。

米国の単独行動主義による国際社会の不一致 ← 湾岸戦争、アフガニスタン、イラク戦争
東西ドイツの統一により EU の誕生

中国がランドパワーに加えて「一带一路」戦略を成功させるためのシーパワーを求める動きが活発となって来た。

台湾問題、東アジア・南アジアでの領海問題→米国の内海であった地域でのとて代る動き

台湾を何としても奪回したい理由

中国の内海と考える第一列島ライン（南西諸島、沖縄、フィリピン、南沙諸島を結ぶライン）に台湾が位置し、国交も公式に無いのに日米の支援を受け、中国の「一带一路」戦略を成功させるのに阻害となっている。

ランドパワー大国中国として、太平洋を支配していた米軍から台湾を奪回支配する事で追い出し、台湾を拠点にしてシーパワー国への機能を有したい強い意向。

更に、台湾の南岸から南シナ海の外縁に沿って「九段線」をひき、その線内の南沙諸島や西沙諸島を中国領土と主張している。（人工島を作り行政区にしている）

↑

ベトナム・フィリピンとの争い

○豊富な資源が埋蔵

○海上交通の要所

日本の尖閣諸島問題

1968年に国連の海洋調査で尖閣諸島近辺の海底に豊富な資源が埋蔵されているとの報告が出るや、中国と台湾が領有権主張をし始めた。

1992年　中国は「領海法」で自国領土と一方的に主張

尖閣諸島は200海里と排他的経済水域が重なっているため、日中で話し合い、中間で線引きをすべきであるが中国が拒否。

沖縄の米軍駐留の必要性

現在の大陸間弾道ミサイルの射程距離…1万km

沖縄から1万kmで世界の主要地域をカバー

沖縄から3000kmで中国全土をカバー

沖縄は絶好のミサイル基地である

2018年以降

米中による「新冷戦」時代に突入

※2022年2月に
ロシアによる
ウクライナとの
戦争が勃発

第二次世界大戦後、世界は ※米・ソによる冷戦レジームにあったが、ソ連邦の崩壊による米/ソ（ロシア）のパワー・バランスが変わり、一方で中国の経済的・軍事的パワーのアップにより、特に直近の 2018 年以降米中の対立と分離（デカプリング）が顕著になって来ている。

ニクソン政権→ 米中国交回復
中国の民主化への期待

オバマ政権→中国との「対話」と「監視政策」の失敗から中国への
経済・軍事の拡大を許す。

トランプ政権→「対話」から「対立」へ

バイデン政権→シーパワー諸国（米・日・インド・オーストラリア）で包囲作戦
(QUAD) で対抗。

↑
中国として「一带一路」対抗戦略を推進
一方で、米中は深い経済関係を有する

以上